

「戦場体験を受け継ぐ」を聞いて

末広町 石川裕一

6月10日(日)、坂戸市文化施設オルモを会場に開催した「九条の会さかど13周年のつどい」では、戦争研究者の遠藤美幸さんが、「いま、戦後世代が『戦場体験』を受け継ぐということ」をテーマとした講演を行ないました。

遠藤さんには、ビルマ戦線での「拉孟戦」について細部に至るまで研究成果を丁寧に説明していただき、ありがとうございました。

「インパール作戦」については、「死の行進」の悲惨さを体験された方からお聞きしたことはありましたが、「拉孟戦」については初めて聞くお話でした。

終戦期における日本の戦力不足は覆いがたく、「陸軍坂戸飛行場」にも見られるように、寄せ集めの飛行機・兵器と部隊を編成し直して、最後は全滅覚悟の抵抗を軍本部が押し付けたのが実態だったと思います。

私は高校生の頃、父の持っていた『15対1』(辻正信著)を読んだことがあり、その中に日米の戦力差が余りにも大きいことが述べられていたことを覚えています。



遠藤さんの研究・聞き取り調査は、関係者の多くに接したもので、その人柄に至るまでの記述は細やかで好感が持てました。

特に心を打たれたのは、木下昌巳小隊長に対する聞き取りの場面です。

何回も手紙や電話でお願いしても断られ続けていたのが、遠藤さんが「ひとつだけお約束できるのは、幼

い息子に聞いたことを伝えることはできます」と訴えると、それが木下さんの心の琴線にふれたのでしょうか、聞き取りを了承されたそうです。

過去の体験を木下さんが遠藤さんに伝え、受けとめた遠藤さんが息子さんに伝える。この伝承の在り方は今の私たちが心がけるべきことのひとつではないでしょうか。当たり前と思われることがなかなか難しいのです。

また、黍野参謀少佐には、聞き取りに伺っても「ビルマ戦線」のことは話してもらえず、話す条件として「古事記を学べ」と言われて、5年半も古事記研究のレジュメ作りを手伝い、その合間に少しずつビルマ戦線のことを聞き続けられたそうです。研究者としてのその粘り強さには驚き、敬服しました。

「戦争体験と戦場体験」を区分していることについての詳しいお話は聞けませんでした。戦場で殺し合わざるを得ない状況に追い込まれたとき、誰が「加害者」で誰が「被害者」になるのか? どちらか一方にだけなるものなのか? 「加害と被害は表裏一体と言えるのではないか」と考えさせられました。

九条の会さかどが続けてきた「戦争を語り継ぐ会」の今後の在り方について、今回の話も参考にして更なる活動を続けていきたいと思います。

今回のつどいには、遠く群馬県から参加して下さった方もいるなど、50人近い皆さまがお集まりになりました。23,462円のカンパも寄せられました。ありがとうございました。

日本機関紙協会埼玉県本部が発行する「SAITAMAねっとわーく」の「平和の風」コーナーで、九条の会さかどが紹介されました。

「SAITAMAねっとわーく」には、「九条の会さかどニュース」に掲載した田中一郎代表の『学徒出陣・

戦後73年 平和を心に刻む

九条の会さかど 戦争を語り継ぐ会

8月26日(日)13時30分~16時 坂戸駅前集会施設2階
母から聞いた坂戸のあの頃(元町 関口久美子さん)、
防空壕と戦後の飢えと(石井 松本 仁さん)、平和紙芝居など

ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

8月25日(土)11時00分~19時 坂戸市文化施設オルモ2階
8月26日(日)9時30分~18時 坂戸市文化施設オルモ2階
原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会(049-289-2527 武井)

撃沈・被弾』が転載されました。以下、「SAITAMA
ねっとわーく」4月号から転載します。

公益活動団体として戦争と戦跡語り継ぐ

戦跡めぐり 市企画で展示

「九条の会さかど」は、九条の会の呼びかけにこたえ2005年に結成されました。現在の会員数は150人です。毎月1回運営委員会をひらき、活動の方針を決めています。

また、毎月「九条の会さかどニュース」を発行し、会の活動や会員が携わっている活動のアピールと報告、



戦争体験者の証言、選挙時の「9条アンケート」や署名の呼びかけなどを、会員と会に関心を持っている人たちに届けて

います。(九条の会さかどのタペストリー)

おもな活動として、毎年2月の「早春のつどい」や6月の「〇周年のつどい」での学習、8月と12月に会員や関係者を語り部に迎えて開催する「戦争を語り継ぐ会」がおこなわれています。

また、10月には市内の戦跡をめぐる「坂戸の戦跡めぐり」をおこなっています。今年も3月10日に坂戸市内で開催された「発見！市民活動フェア」に九条の会さかどのブースを設けて、「戦跡めぐり」の成果などを市民に知らせています。活動フェアでは「9条投票」もおこない、圧倒的な「9条このまま」を得ました。

坂戸市にはかつて、旧陸軍の飛行場がありました。運営委員の岩淵正樹さんは「新しい住民が多くなった

こともあって、ほとんどの市民に知られていない。語り継がれなかった体験は消えていくが物は言わなくても戦争遺跡は残る。戦跡も語り継いでいくことで、平

和の大切さを伝えたい」と語ります。(市民活動フェアでの展示ブース)

同じく運営委員の大山茂さんは「陸軍航空隊拠点の立川、航空士官学校の入間、飛行場を設けた坂戸・熊谷、そして軍用機を量産した中島飛行機の群馬県太田まで南北一直線に並んでいる。西側は山地になっており、これを目印に未熟なパイロットが飛行していたのだと考えられる」と研究の成果を話してくれました。

また、この基地は戦後米軍基地にされる可能性がありましたが、住民たちが反対運動を起こしたことでそれを阻止しました。こうした住民運動の歴史を調べ語りついでいくことも、会としての大きな役割としています。

「戦跡めぐり」は郷土史に詳しい会員を案内役としてはじまりました。運営委員の平瀬敬久さんは「戦争

を体験した世代が高齢化していくなかで、戦争を体験したわけではない私たちの世代が、語り継ぐ会や戦跡めぐりで学ぶことで替わって語り継ぎ、いろいろな場で伝えていくことが大事」と活動の意義を語ってくれました。

平和の大切さ語り継ぐ

「九条の会さかど」は「公益活動団体」として坂戸市に登録しています。「私たちの活動は、“憲法九条を大切にしたい”という思いからおこなっている市民活動。当たり前のこととして、憲法九条を大切にしているということをアピールしている。ほかの九条の会でも、ごく普通の市民活動として、どんどん行政への登録などやってみたらいいと思う」と岩淵さんは語ります。また、自民党の推しすすめようとする改憲問題については「改憲勢力はたしかに強い。しかし、あたふたせず、しずかに九条の大切さを語りつづけていく。今回改憲を防げたとしても九条の大切さを語ることは今後も続いていく」と九条への思いを話してくれました。(戦跡めぐりの写真を展示)



「九条を守ろう」という一点をベースにさまざまな人が参加する「九条の会さかど」、今後も戦争体験の聞きとりや地域の戦争遺跡の発掘などを地道におこない、戦争の歴史や平和の大切さを市民にひろめていきたいということです。

木村草太氏講演会「憲法という希望」

憲法に込められた本当の力とは…

オープニング アルパの演奏(藤枝貴子さん)

- 日時 7月9日(月)開場12時30分、開演13時～
- 会場 ウェスタ川越多目的ホール
- 入場 無料(要:整理券)
- 主催 「九条の会」かわごえ連絡会
- 後援 川越市・川越市教育委員会
- 連絡 090-7013-7393(山口)

※チラシ・入場整理券を用意しています。

応援カンパも募っています。

九条の会さかども「講演会」を応援しています！



今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

7月26日、8月23日、9月27日(第4木曜日10時～12時)
会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。